

COG2025 応募内容確認書

ID	63-30-5
自治体名	沖縄県那覇市
自治体提示地域課題	地域課題解決に向けた協働による新たな取り組みへのチャレンジ
チーム名	真和志Wellbeing
アイデア名	Let'sてくてく登下校!!
チーム属性	市民：市民だけで構成されたチーム
チームメンバー数	5
代表者	渡慶次 正一
メンバー（公開）	渡慶次 正一, 仲田 奨司, 平良 史子, 安座間 智美, 喜納 利奈

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。



アイデア提案書

チーム名:真和志Wellbeing

アイデア名:Let'sてくてく登下校!!

該当する自治体名:那覇市

自治体提示の地域課題:
地域課題解決に向けた協働による
新たな取り組みへのチャレンジ



1. アイデアの全体像(What)

1-1. 提案するアイデアのあらまし

私たちチームWellbeingは、真和志地域【古くからの住宅街で子育て世代と高齢世代が混在している地域】における登下校時の交通混雑と地域安全確保の担い手不足という根深い課題に対し、「歩くことを『義務』から『楽しみ』へ変える」コミュニティ再生プロジェクト、「Let'sてくてく登下校!!」を提案します。

このプロジェクトは、単に登下校時の交通問題を緩和するだけでなく、「てくてく(着実な歩行)」と「わくわく(期待感)」を核とし、地域全体で児童の安全と健やかな成長をサポートする持続可能な仕組みを構築します。地域が一体となって子どもたちの登下校を見守り、通学路を学びと発見に満ちた「ワクワクの冒険の舞台」に変えることを目指します。



↑25/10/01に真和志まち協の地域関係者へ地域課題のヒヤリングを行い、①送迎による交通混雑と②立哨ボランティアの担い手不足があがり、本企画の提案に至る

答えは、登下校の「義務」を「楽しみ」へ変えること



1-2. 提案するアイデアの内容



観 点	内容:「てくてく登下校」プロジェクト
What (何を)	「Let'sてくてく登下校!!」の推進:登下校の徒歩率を向上させ、地域全体で子どもの成長と安全な環境づくりを両輪で進める、継続的な地域コミュニティ活性化活動です。 児童が自ら「歩きたい!」と思えるよう、マスコットキャラクター「まっぴー」体験型イベントを企画します
Who (誰に)	真和志小学校の児童およびその保護者、ならびに真和志地域コミュニティ全体が対象です。 児童には日常的な運動習慣の定着や自立心・社会性の涵養を促し、地域には安全確保(立哨ボランティア不足の解消)と世代間交流による活性化をもたらします。
Where (どこで)	那覇市真和志小学校区を中心として展開し、成功モデルを確立した後、近隣の上間小学校区など真和志地域全体へと拡大・展開することを目指します

【提案するアイデアの実現までの流れ(When/How/What)】

提案するアイデアの「実現までの流れ」は、「基盤づくり」「活動の活性化」「地域への展開」の3ステップのマスタープランをデータとデザイン思考を活用して実現します。

段階	期間(When)	企画の内容(How/What)
ステップ1 基盤づくり	FY2025 (R7年度) 	①「現状を知る」ためのGoogleフォームを用いたアンケート調査で現状の徒歩登校率と送迎理由を客観的に把握します ②生成AIを活用したPR動画で子どもたちの興味を喚起します ③真和志まち協と連携して立哨ボランティア体制を強化しボランティアマッチングシステムの構築を目指します
ステップ2 活動の活性化 	FY2026-2027 (R8-R9年度)	①学年別に「リアルあいさつヒーローRPG」「デジタル探検マップ・コレクション」「地域課題解決てくてくエージェント」など、通学路を移動から冒険【ミッション】の場に変えるデジタルツールを使ったワクワクする企画を検討し段階的に実施します ②活動後には効果測定(徒歩登校率の再調査)を行い、活動を改善します
ステップ3 拡大と持続 	FY2028～ (R10年度以降)	真和志小学校での成功事例をパッケージ化し、他校区へ展開することで、地域全体の徒歩登校率向上とコミュニティ活性化に貢献する持続可能なモデルを構築します

未来へ続く、3ステップのマスタープラン



しかし、これが現在の通学路の現実です



① 保護者の送迎車による交通混雑と安全への懸念



② 地域で見守る立哨ボランティアの担い手不足

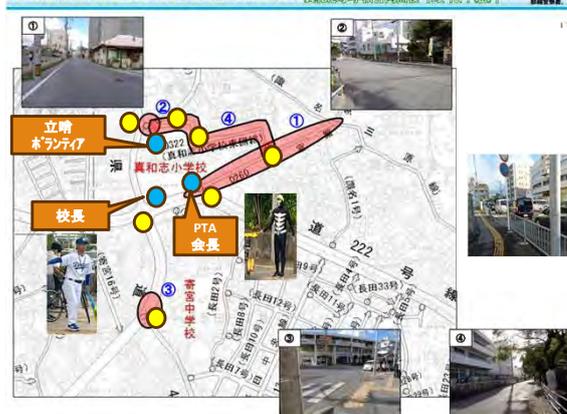


2. アイデアの理由(Why)

5W1Hの観点	課題の根底/必要 (Why Necessary)	効果/有効性 (Why Effective)
Where/What (真和志小学校周辺)	根深い安全問題: 車送迎による交通混雑で児童の安全が脅かされる一方、見守りボランティアの不足【3人⇒10人必要】も深刻な地域課題	即時的な安全の確保: 徒歩登校の促進で送迎車の混雑を解消。地域全体の見守り体制を強化し、安全な通学路の実現を目指します
What/How (徒歩登下校の促進)	行動変容の困難さ: 徒歩を「義務」から「楽しみ」へ子供が自ら「歩きたい!」と思えるワクワクが、行動変容を促します	劇的な徒歩率向上: 「てくてく」と「わくわく」を融合し、登校を「義務」から「楽しみ」へ自発的な参加で徒歩率を劇的に向上
Who/What (児童への長期的な影響)	子どもの健やかな成長 運動や交通学習の減少が、子供の体力や社会性の低下を招きます	心身のウェルビーイング向上: 徒歩通学は生活習慣を整え学力を向上。交流や危険予測を通じ、自立心と社会性を養う健やかな成長を支えます

●: 現在の立哨配置 3人程度
●: 追加立哨したい配置 7人必要

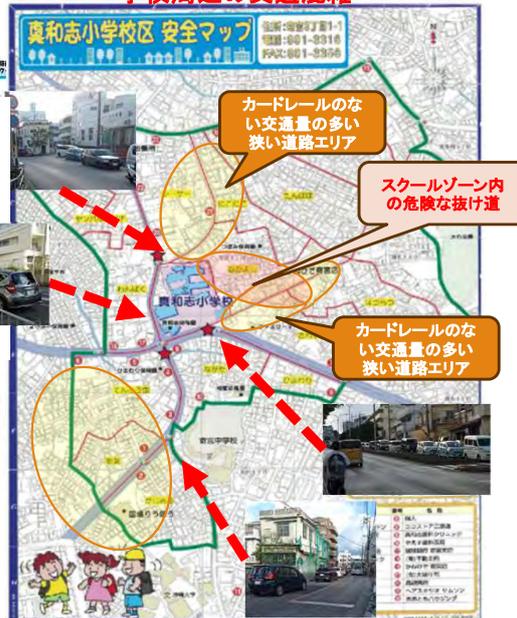
真和志小学校区通学路対策実施箇所図



真和志小学校区
最大登校距離: 1km
低学年: 20~25分
高学年: 15~20分

平均距離: 4~600m
平均時間: 10~15分

学校周辺の交通混雑



2-1. 理由のポイント

私たちチームWellbeingが提案する「Let'sてくてく登下校!!」は、単なる児童の安全対策ではなく、真和志地域が抱える二重の構造的課題(交通安全とコミュニティの衰退)を同時に解決する、実績に裏付けられた持続可能なアプローチです。

なぜ今、「てくてく登下校」なのか？



1. 子どもの健やかな成長のために
日常的な運動習慣の定着と体力向上。

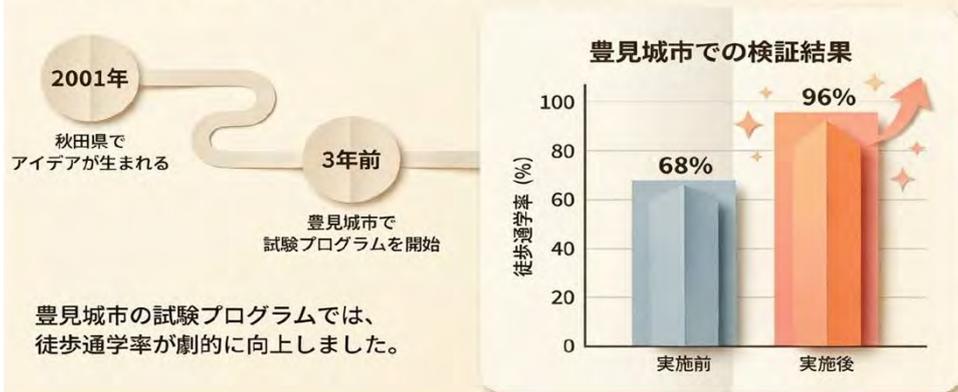


2. 自立心と社会性を育むために
危険予測能力や交通ルールの遵守、友達とのコミュニケーション機会の創出。



3. 地域コミュニティの活性化のために
登下校の見守りを通じた、世代間の交流と地域全体のつながりの強化。

これは、確かな成功実績に裏付けられた計画です



2-2. 根拠と裏付け

このプロジェクトは、3年前の豊見城市で行われ、徒歩登校率が68%から96%へと劇的に向上した実績と、朝歩くことで血流が良くなり脳が活性化し、授業への集中力がアップし、最終的に学力の向上につながったという副産物的な効果が秋田県の報告(2001年)に基づいて、その有効性を担保しつつ、地域力で子どもの「わくわく」という「デザイン思考」をプラスして、活動を設計することで、真和志地域全体の課題解決に貢献する意味を持っています。

また私たちチームメンバー5人は、那覇市が推進する“まちづくり協議会”の真和志地区(真和志・上間・仲井真)で連携しているため、それぞれの地域で既に地域貢献を行っている活動実績とネットワークがあり、ステップ3の真和志地域への拡大に向けても確かな自信があります。

歩く習慣は、子どもたちの「学ぶ力」も育みます

「体を動かすことは規則正しい生活習慣を確立し、間接的に**学力に好影響**を与えうる。」



朝、体を動かすことで血流が良くなり脳が活性化し、授業への集中力がアップします。また、「早寝・早起き・朝ごはん」といった生活リズムが整い、学力向上に繋がったことが秋田県の事例で報告されています。

3. 実現までの流れ(How)

3-1. 実現する主体

プロジェクトの成功は、中心となるチームWellbeingと、地域社会の主要な関係者との強固な連携体制にかかっています。

3-2. 必要な資源と調達方法

ヒト:必要人財・スキルと確保方法

このプロジェクトは、私たちチームが中核となり、地域の既存リソースを最大限に活用し、学校関係者の負担を最小限に抑える体制(自助・共助)で推進されます

- ①チームWellbeing: プロジェクト全体の企画・推進・調整(ハブ機能)データ(アンケート)の分析⇒既存市民チームが主体的に取り組む
- ②真和志まちづくり協議会: ボランティア募集協力／広報活動
- ③学校関係者: 教育面での協力(PR動画の放映協力、安全教育との連携)
- ④児童273名・PTA: イベント参加／協力
- ⑤地域・学生ボランティア: 立哨活動の担い手／下校時イベントのサポート

地域が主役。三位一体で創る、私たちのプロジェクト



↑25/10/31に学校関係者と一緒、サプライズでハロウィン立哨を楽しみながら実施しました



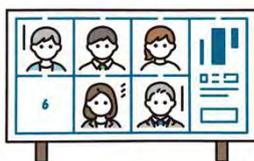
モノ:必要機材・設備・場所と調達方法

活動に必要な機材や場所は、デジタルツール活用(タブレット教材・Googleフォーム・生成AI等)地域の既存資源(まち協掲示板、まっぴー)を優先的に利用し、コストを抑えます。

カネ:資金規模と調達方法

本プロジェクトは、初期段階(ステップ1)において、低コスト運用を徹底し、活動の持続可能性を確保します。

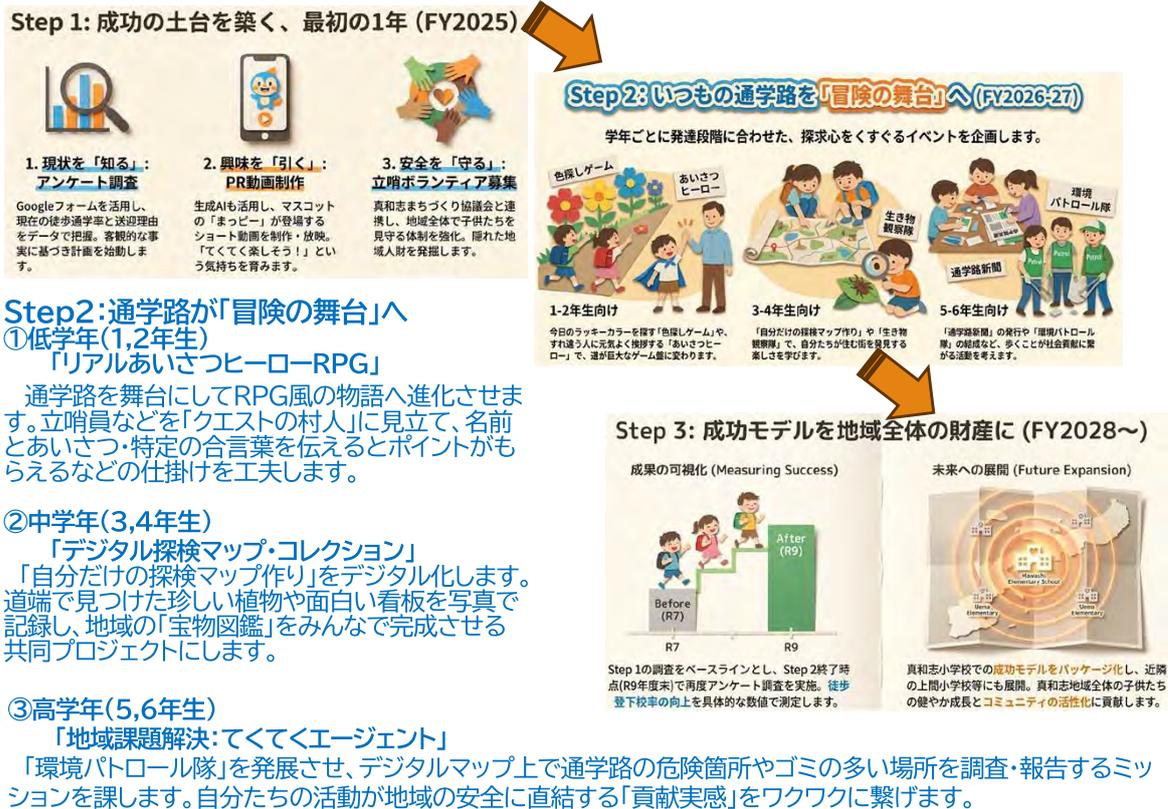
この計画では、初期投資を抑えることで、行政への「陳情」ではなく「市民が自ら取り組む(自助・共助)」という原則を明確に守りながら、活動の基盤を構築します。



資金項目	資金規模	調達方法／計画
運営費 準備費	5千円	ステップ1では、アンケート(Googleフォーム)、PR動画(生成AI活用)など、デジタル技術を駆使した低コストな手段を採用し、最小限に抑える
イベント 実施費	80千円 (年間)	ステップ2以降は、地域を巻き込んだイベント(あいさつヒーロー、マップ作りなど)の費用が発生するが、那覇市民活動助成金を活用、あるいはまち協との協働主催による資金調達を検討する

3-3. 実現までのプロセスと時間軸(3ステップのマスタープラン)

「Let'sてくてく登下校!!」プロジェクトでは、この実現プロセスと時間軸を、データとデザイン思考に基づき1-2で紹介した段階的に進める「3ステップのマスタープラン」をもとに下の内容を計画しています。



Step 2: 通学路が「冒険の舞台」へ

①低学年(1,2年生)

「リアルあいさつヒーローRPG」

通学路を舞台にしてRPG風の物語へ進化させます。立哨員などを「クエストの村人」に見立て、名前とあいさつ・特定の合言葉を伝えたらポイントがもらえるなどの仕掛けを工夫します。

②中学年(3,4年生)

「デジタル探検マップ・コレクション」

「自分だけの探検マップ作り」をデジタル化します。道端で見つけた珍しい植物や面白い看板を写真で記録し、地域の「宝物図鑑」をみんなで完成させる共同プロジェクトにします。

③高学年(5,6年生)

「地域課題解決: てくてくエージェント」

「環境パトロール隊」を発展させ、デジタルマップ上で通学路の危険箇所やゴミの多い場所を調査・報告するミッションを課します。自分たちの活動が地域の安全に直結する「貢献実感」をワクワクに繋がめます。

※私たちWellbeingが目指しているものは

- ①子どもと地域をつなぐコミュニティの再生、②安全確保のための見守り強化
 - ③生涯にわたる健康習慣作り、④地域を大切にする郷土愛を育むことです。
- この企画は多くのポジティブな効果が期待できると信じています。

3-4. 想定リスクとその対応策

私たち「Let'sてくてく登下校!!」プロジェクトが実現を脅かす可能性のある主要なリスクはこの取り組みが「単発のイベント」で終わってしまうことです。

これを防ぐため、「てくてく」(着実な習慣化)と「わくわく」(デザイン思考による動機付け)を置き、さらに「自助・共助」の原則に基づき、学校ではなく市民と地域が主体となって持続性を担保する設計となっています。

「てくてく登下校」プロジェクト

学校周辺では、保護者の自家用車による送迎が増加し、交通渋滞と安全上の懸念が生じています。同時に、子どもたちを見守るボランティアも不足しています。この状況を解決するため、登下校を「義務」から「楽しさ」と「冒険」に変えるコミュニティプロジェクトが提案されました。

私たちの地域の課題



送迎の車による交通渋滞
登下校時、学校周辺の狭い道路が送迎の車で混雑し、危険な状況が発生しています。



見守りボランティアの担い手不足
子どもたちの安全を確保するための立哨ボランティアが不足しているのが現状です。

解決策: 楽しみながら、みんなで育む歩く習慣

登下校を「義務」から「楽しみ」へ!

子どもが自ら「歩きたい!」と思えるような、楽しさと安全を両立させる取り組みです。



「歩く」がもたらす3つの効果

- 子どもの健やかな成長
- 自立心と社会性の育成
- 地域コミュニティの活性化

実現に向けた3ステップ計画



1. 準備フェーズ (2025年度)

現状把握アンケート、PR動画制作、ボランティア募集



2. 実践フェーズ (2026-2027年度)

「歩くのが楽しくなる企画」の段階的な実施と効果測定



3. 拡大フェーズ (2028年度以降)

成功モデルを確立し、近隣の学校区へと活動を拡大